



## 平成24年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年5月10日

上場会社名 ガイアホールディングス株式会社  
コード番号 3727 URL <http://www.gaia-hd.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 郡山 龍

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 伊藤 洋

TEL 03-5286-8436

四半期報告書提出予定日 平成24年5月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年12月期第1四半期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第1四半期	2,049	△1.3	△327	—	△315	—	△378	—
23年12月期第1四半期	2,075	1.9	△19	—	△37	—	△156	—

(注) 包括利益 24年12月期第1四半期 △261百万円 (—%) 23年12月期第1四半期 △117百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第1四半期	△30.18	—
23年12月期第1四半期	△15.44	—

(注) 当社は平成23年12月20日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。

平成23年12月期第1四半期の1株当たり四半期純利益金額は、当該株式分割が平成23年12月期の期首に行われたと仮定して算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年12月期第1四半期	14,570	13,280	91.5
23年12月期	15,387	13,544	88.3

(参考) 自己資本 24年12月期第1四半期 13,328百万円 23年12月期 13,591百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年12月期	—	—	—	—	—
24年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	11,000	4.7	500	20.2	418	8.9	116	△77.3	11.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成24年12月期の第2四半期業績予想につきましては、当社技術を搭載した民生用電子機器を顧客が出荷する中で、当社の第2四半期末を跨ぐ6月から7月に新たな製品の発売が集中しており、出荷タイミングが前後することで当社の売上計上の時期が変わってしまうことから、当社単独では確度の高い予想を出すことが非常に困難であり、開示を控えさせて頂いております。

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年12月期1Q	12,553,930 株	23年12月期	12,553,930 株
② 期末自己株式数	24年12月期1Q	3,679 株	23年12月期	1,400 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年12月期1Q	12,551,681 株	23年12月期1Q	10,132,700 株

(注) 当社は平成23年12月20日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。  
23年12月期1Qの期中平均株式数(四半期累計)は、当該株式分割が平成23年12月期の期首に行われたと仮定して算定しております。

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における当社グループの主な事業分野である携帯電話市場は、国内市場では、国内通信キャリア各社の割引サービス等のシェア攻防が続き、スマートフォンの普及を加速させており、携帯電話端末の需要も増加傾向が続いております。海外市場においても、廉価で高性能なスマートフォンやフィーチャーフォンが相次いでリリースされており、携帯電話市場におけるスマートフォン関連市場は成熟期に差し掛かりつつあると考えられます。

モバイルコンテンツ市場においても、各通信キャリアや大手SNS事業者等によりスマートフォン向けのアプリマーケットが整備されはじめ、ユーザーの利便性も高まりを見せております。更に、大手SNS事業者の海外展開が本格化する等、今後更なる市場の拡大やグローバル化が期待されます。

各セグメントの概況は以下のとおりであります。

#### (a) ソフトウェア基盤技術事業

中核事業であるソフトウェア基盤技術事業の売上については、国内市場では、市場出荷台数の50%を超える勢いで販売されているスマートフォン市場において、追従した売上が順調に伸びました。一方、フィーチャーフォン向け製品の売上は、その減少する出荷台数に比例する形で減少となりました。また、顧客のスケジュール変更により、スマートフォン向け製品において、一部、当第2四半期連結会計期間以降の計上となる製品売上が発生しており、結果、国内市場を総合すると前年同四半期比で微減となりました。

海外市場においては、Samsung、Motorola Mobility Inc.、Huawei Technologies Co., Ltd.等の大手携帯電話端末メーカーのフィーチャーフォンへの「JBlend」の搭載数が引き続き強い需要を保っておりますが、例年の季節性変化により、海外市場でのJBlend搭載数は、前連結会計年度第4四半期から微減に推移いたしました。中国市場においてはフィーチャーフォンからスマートフォンへの移行が加速し、当第1四半期連結累計期間のJBlendの売上に影響しております。

APAC地域においては、Javaアプリのエコシステムの開発と継続的な発展のために、引き続きモバイルコンテンツ業界各社との協業体制を強化しております。携帯電話端末メーカー向けにはスマートフォンのようなユーザーエクスペリエンスを実現するためのコンテンツダウンロード機能等を追加したJBlendを提供し、コンテンツ開発会社には互換性の強化や携帯電話端末メーカーへのプリインストールコンテンツとして一括提供をする等、積極的に協業関係を進めております。また有名コンテンツタイトルについて複数のプラットフォームに対応を開始する等、新たなコンテンツ供給と売上への貢献に向けて取り組んでおります。

引き続き、コンシューマー用、PC用、スマートフォンやタブレット端末用にゲームを提供するゲーム開発会社や、国内外のPC・ゲーム周辺機器メーカー等と協業してワイヤレスコントローラー市場の拡大に取り組み、Android OS向けのワイヤレスゲームコントローラー「JS1」の製造・販売及びゲームデベロッパー向けのマーケティングプロモーションを推進しております。また、Android機器用ワイヤレスコントロール基板「JM1」の製造・販売、並びにJS1と互換性のある周辺機器を開発するための回路設計情報やファームウェアのライセンス提供を開始、海外顧客とのライセンス提携を発表する等、着実に技術開発及びビジネス展開を推進しております。

また、更なる成長が著しいM2M市場に向けて、ソフトウェア基盤技術事業の主力事業会社である株式会社アプリックスは、同事業セグメントのiaSolution Inc.及びZeemote Technology Inc.と共同で開発したインテリジェントなICチップ（通称「千里眼」）の概要を発表し、その第一世代ICチップを搭載した通信モジュールを公開いたしました。提供を開始するM2M向け製品は、既に市販されている電気製品を改造することなく、安く簡単にネットワークにつなげることを可能にします。家庭やオフィスや店舗にある身近な機器にアプリックスの製品を取りつければ、商品の稼働状況がリアルタイムに把握でき、在庫の補充やメンテナンス時期等の最適化が図れるようになります。商品がいつどのように使われているのかがわかれば、新たなビジネスチャンスを生み出すことが可能になります。これまで高価なために産業用や医療用等に限られていたM2Mですが、当社グループは単に商品を売るだけの売切りビジネスではなく、継続的な収益モデルを可能にするM2Mの新しい潮流を創出します。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間のソフトウェア基盤技術事業の業績は、売上高598,487千円（前第1四半期連結累計期間747,436千円）、営業損失233,563千円（前第1四半期連結累計期間183,179千円）となりました。

#### (b) コンテンツ・サービス等事業

コンテンツ・サービス等事業の主力事業会社である株式会社ジー・モードが展開する公式コンテンツ配信事業においては、厳しい市場環境の中、総合ゲームサイト「テトリス&Getプリアプリ」や「対戦ぐるじゃむ」が根強い人気を維持しております。また、運営手法の見直しや、不採算コンテンツの統廃合による効率化を継続して推進しております。その他、ロールプレイングゲーム専門サイト「R.P.G-mode」で提供する人気ゲーム「フライハイトフロンティア」等が引き続き売上に貢献いたしました。また、オープンソーシャル事業においては、スマートフォンでの配信も開始している主力コンテンツ「天空のスカイガレオン」等が売上に貢献しております。当該事業の開発体制の強化を進めており、今後の売上高比率が更に増加するものと見込んでおります。更に、当第2四半期連結会計期間以降の総

合エンターテインメントへの事業展開の一環として、Webコミック誌「COMICメテオ」の創刊を進めるとともに、人気ゲーム「フライハイト」シリーズや「天空のスカイガレオン」のコミック化等も予定しており、更なる事業機会の拡大に取り組んでおります。

株式会社アニメインターナショナルカンパニーが展開するアニメーション制作事業においては、「ストライクウィッチーズ劇場版」が完成・上映され非常に大きな反響を得ております。また、前連結会計年度から継続してTV放映されている「ペルソナ4」が人気を博すとともに、当第1四半期連結累計期間から新たにTV放映が開始された「アマガミSSプラス」が売上に貢献しております。前連結会計年度から制作を着手した「宇宙戦艦ヤマト2199」については、当第2四半期連結会計期間の公開に向け制作が佳境に入っております。人気タイトルについては、更にアニメーションの魅力度を向上させるため、戦略的に制作し費用が増大いたしました。これについては当第2四半期連結会計期間以降の著作権収入等の増大により回収予定です。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間のコンテンツ・サービス等事業の業績は、売上高1,450,537千円（前第1四半期連結累計期間1,328,144千円）、営業損失93,537千円（前第1四半期連結累計期間は164,438千円の営業利益）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は2,049,025千円（前第1四半期連結累計期間2,075,580千円）となりました。営業損益につきましては、327,694千円の営業損失（前第1四半期連結累計期間19,010千円）となりました。経常損益につきましては、為替差益の計上等により、315,502千円の経常損失（前第1四半期連結累計期間37,858千円）となりました。四半期純損益につきましては、378,761千円の四半期純損失（前第1四半期連結累計期間156,448千円）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第1四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末と比較して816,511千円減少し14,570,866千円となりました。これは受取手形及び売掛金が379,425千円、有価証券が548,508千円それぞれ減少したこと等によるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して、553,162千円減少し1,289,893千円となりました。未払金が147,239千円、前受金が299,785千円それぞれ減少したこと等によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して263,348千円減少し13,280,972千円となりました。これは、主に四半期純損失を378,761千円計上したことに伴い利益剰余金が減少したこと等によるものです。なお、第27回定時株主総会にて資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を決議したため、資本剰余金が1,064,463千円減少し、利益剰余金が同額増加しております。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率につきましては、前連結会計年度末と比較して3.2ポイント増加し、91.5%となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の見通しにつきましては、平成24年2月13日の発表数値から変更はありません。

## 2. サマリー情報（その他）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,504,712	4,778,894
受取手形及び売掛金	1,634,840	1,255,415
有価証券	5,130,204	4,581,695
商品	112,923	115,709
仕掛品	527,429	352,988
その他	403,245	384,288
貸倒引当金	△43,615	△46,245
流動資産合計	12,269,740	11,422,746
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	17,461	15,540
車両運搬具及び工具器具備品（純額）	53,269	53,096
土地	46,000	46,000
有形固定資産合計	116,730	114,636
無形固定資産		
のれん	823,108	769,431
ソフトウェア	1,219,863	1,176,443
ソフトウェア仮勘定	78,924	228,352
その他	25,753	20,484
無形固定資産合計	2,147,650	2,194,712
投資その他の資産		
投資有価証券	268,268	250,971
その他	584,988	587,799
投資その他の資産合計	853,256	838,771
固定資産合計	3,117,637	3,148,120
資産合計	15,387,377	14,570,866

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	486,904	429,556
1年内返済予定の長期借入金	13,133	13,299
未払金	405,762	258,523
未払法人税等	39,691	26,324
前受金	507,075	207,289
賞与引当金	70,148	90,428
その他	308,948	255,791
流動負債合計	1,831,664	1,281,212
固定負債		
長期借入金	3,387	—
その他	8,004	8,680
固定負債合計	11,391	8,680
負債合計	1,843,056	1,289,893
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,264,700	13,264,700
資本剰余金	1,064,463	—
利益剰余金	△233,127	452,573
自己株式	△8,714	△10,336
株主資本合計	14,087,321	13,706,937
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△240,690	△214,206
繰延ヘッジ損益	△15,775	25,565
為替換算調整勘定	△239,013	△189,802
その他の包括利益累計額合計	△495,479	△378,443
新株予約権	△47,521	△47,521
純資産合計	13,544,321	13,280,972
負債純資産合計	15,387,377	14,570,866

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)
売上高	2,075,580	2,049,025
売上原価	1,229,899	1,603,318
売上総利益	845,681	445,707
販売費及び一般管理費	864,691	773,401
営業損失(△)	△19,010	△327,694
営業外収益		
受取利息	5,044	5,539
受取配当金	900	900
投資事業組合運用益	14,865	—
為替差益	7,258	22,114
その他	925	1,525
営業外収益合計	28,994	30,079
営業外費用		
支払利息	41	231
投資事業組合運用損	5,838	11,072
持分法による投資損失	—	5,657
支払手数料	41,556	900
その他	404	26
営業外費用合計	47,842	17,888
経常損失(△)	△37,858	△315,502
特別利益		
貸倒引当金戻入額	156	—
特別利益合計	156	—
特別損失		
合併関連費用	9,534	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	14,099	—
その他	4,910	—
特別損失合計	28,545	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△66,247	△315,502
法人税、住民税及び事業税	18,921	73,567
法人税等調整額	8,554	△10,308
法人税等合計	27,475	63,259
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△93,723	△378,761
少数株主利益	62,725	—
四半期純損失(△)	△156,448	△378,761



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△93,723	△378,761
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△80,831	26,483
繰延ヘッジ損益	4,681	41,340
為替換算調整勘定	52,522	48,219
持分法適用会社に対する持分相当額	—	991
その他の包括利益合計	△23,628	117,035
四半期包括利益	△117,351	△261,726
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△185,449	△261,726
少数株主に係る四半期包括利益	68,098	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年3月27日開催の第27回定時株主総会にて資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を決議しております。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本剰余金が1,064,463千円減少し、利益剰余金が同額増加しております。